

平成29年度 札幌市学習実現状況調査  
平成30年度 全国学力・学習状況調査

## 分析のまとめと改善策

平成30年8月  
札幌市教育委員会



- ◇「札幌の成果と課題」を踏まえ、以下の3点を重視して学校での学びを改善していく必要がある。
- 子どもが、**学ぶことの意義や楽しさ**を感じ取り、自ら学び続けようとする意欲をもつこと
- 子どもが、自ら考えたり表現したりするなどの**多様な学びを経験し、思考力・判断力・表現力等を身に付けること**
- 子どもが、学び続けるための**基礎的・基本的な知識や技能を身に付け、新たな学びに自信をもって挑戦**していけるようになること

◇学校での学びの質を高め、家庭と一体となって「学ぶ力」を育むことを目指して「さっぽろっ子『学ぶ力』の育成プラン」を実施する。

## 平成30年度 さっぽろっ子「学ぶ力」の育成プラン

「札幌市教育振興基本計画」(H26年度～)に位置付けて推進

SAPP  
RO

### ◆分かる・できる・楽しい授業づくりの充実

**「子どもが自ら考え、判断し、表現する学習活動」の充実**

- 自ら疑問や課題をもち、主体的に解決する**課題探究的な学習**を取り入れた授業の工夫改善を図る。
- \*「6つのセルフチェック」の活用による授業づくりの充実
- \*小学校5・6年生算数における少人数指導「算数に一ごうプロジェクト」の実施

**学ぶ意欲の向上**

知識の理解の質を高め、  
資質・能力を育む  
「主体的・対話的で深い学び」  
\*言語活動や体験的な活動等の充実

**「自分への自信をもたせるきめ細かい指導」の充実**

- 基礎的・基本的な知識及び技能の定着を図り、子どもが分かる・できる喜びを実感できるよう、**個に応じた指導の充実**を図る。
- \*生きて働く知識・技能の習得に向け、知識・技能の活用場面を位置付けた授業の充実
- \*一人一人のよさや伸びを認める指導と評価の一層の充実

### 5つのポイント

- 1 難しいことにも挑戦する意欲を伸ばします。
- 2 「自ら学ぶ方法」と「人と学び合う方法」を身に付けられるようにします。
- 3 意味理解を伴った知識の習得と、知識を使いこなす力を伸ばします。
- 4 自分の「伸び」を実感して、新たな目標をもてるようにします。
- 5 生活を自らコントロールする力を育みます。

教員の指導力向上に向けた施策

**各学校が「学ぶ力」育成プログラムを改訂し実行**

○各学校が、自校の児童生徒の「学ぶ力」の実現状況を踏まえて、指導方法等の**課題を明確化し、改善に向けて作成したプログラムの改訂、実行**に取り組む。(教育課程等への位置付け、指導方法の改善など)

具体的な改善策について教育委員会が支援

札幌市教育センターにおける教員研修	札幌市教育研究推進事業	教育課程研究協議会・説明会等	札幌市研究開発事業
<p>○授業づくりに関する<b>研修の充実</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実効性の高い研修の充実</li> <li>・指導資料等の積極的な活用</li> </ul>	<p>○分かる・できる・楽しい授業に関する<b>研究の推進</b></p> <p>○新学習指導要領の実施に向けた<b>研究の推進</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員の協働による授業づくりに関する実践的研究の推進</li> <li>・研究・研修の成果の発信</li> <li>・校内研修支援</li> </ul>	<p>○分かる・できる・楽しい授業の<b>在り方を協議</b></p> <p>○新学習指導要領の実施を見据えた教育課程の<b>在り方について協議</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新学習指導要領に関する情報や実践事例の共有</li> </ul>	<p>○指導方法等の<b>モデル事例開発</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・研究推進校によるモデル事例の開発</li> <li>・事例の共有と活用に向けた成果発信</li> </ul>

### ◆学校、家庭が一体となった「習慣づくり」「環境づくり」の推進

**学校・家庭・地域との連携強化**

○家庭、地域への**情報発信の充実**

※「社会に開かれた教育課程」の理念に基づき、家庭や地域との共通理解のもとで「学ぶ力」の育成に向けた取組を推進

- ・リーフレット**さっぽろっ子「学び」のススメ**の配布と活用
- 学校、家庭が一体となった子どもへの働きかけ等について
- ・札幌市PTA協議会をはじめとする関係機関との連携



**校長会との連携強化**

○**双方向**による「学ぶ力」の育成

- ※校長会との多様な機会における双方向の連携を強化
- ・「学ぶ力」の育成に向けた協議
- ・各区の教務主任会・ミドルリーダー研修会への**指導主事の派遣**
- ・各学校の研修会等の充実

(その他)・ICTの活用、学生ボランティアの活用などの環境整備

### ◆校種間・学校間の連携による教育活動の充実

- 指導内容の連続性や系統性を重視した教育課程の工夫改善
- 授業交流や合同研修会、「学ぶ力」育成プログラム等を活用した情報交換
- 学ぶ意欲や自己肯定感の向上に向けた**異校種体験**や交流

### 子どもの自己評価を生かした「学ぶ力」の評価と指導の改善 ～20の指標～

○教育施策や教育指導の改善に反映するため、**札幌市全体の共通指標を設定**し、子どもの学習状況等を把握するとともに、分析する。

改善

検証改善

検証改善サイクルの確立

評価

## 教科に関する調査結果

## 児童生徒質問紙調査結果

### 全国学力・学習状況調査 【国語、算数・数学、理科】

◇国語の漢字、算数・数学の割合に関する設問など、これまで課題であった箇所において、**正答率が大きく上昇**するなど、**小中学校ともに改善**が見られた。

◆国語では「自分の考えをまとめること」、算数・数学では「判断の理由や解決の方法を数学的に表現すること」、理科では「観察・実験の結果を基に考察し、より妥当な考えを見出すこと」など、**身に付けた知識・技能を活用することについて、小中学校ともに課題。**

### 札幌市学習実現状況調査 【社会、英語】

◇**小中学校ともに社会、英語の全ての観点において、前回調査より上昇**が見られた。特に、小学校社会では、資料から読み取れることを答える設問等において、大幅な改善が見られた。

◆社会では「多面的・多角的に考えながら的確に表現すること」、英語では「場面や目的、状況等にふさわしい英語表現を考え、表現すること」など、**目的や状況に応じて、考えたことを表現することに小中学校ともに課題。**

### 学ぶ意欲

◇「自分にはよいところがあると思いませんか」という項目において、小学校、中学校ともに肯定的な回答の割合がこれまで改善傾向にあったが、今年度は小中学校ともに大幅な上昇が見られた。

◆「将来の夢や目標をもっていますか」という項目において、小学校、中学校ともに、平成25年度から下降傾向にあったが、今年度は、中学校において改善が見られた。

**★子どもが自分の「伸び」やできるようになった喜びを実感したり、今の学びが将来にどう生きるのかを考えたりできるようにすることが重要である。→「学ぶ力」の育成に向けた5つのポイントの4及び「課題探究的な学習」におけるセルフチェック6に関連**

### 課題探究的な学習

◇「自分の考えを深めたり、広げたりすること」については、小学校、中学校ともにこれまで60%台で推移していたが、今年度は小学校、中学校ともに10ポイント程度の上昇が見られた。

⇒「**課題探究的な学習**」に対する**子どもの意識が向上している。**

**★子どもが他者と話し合うことのおよさや、できるようになった喜びを実感できるように活動を通じて自らの考えを広げ深められるようにすることが重要である。(「学ぶ力」の育成に向けた5つのポイントの3、4及び課題探究的な学習におけるセルフチェック5、6に関連)**

### 学習習慣の状況

◇計画を立てて勉強すること、家で学校の宿題をすることにおいて、小中学校ともに肯定的な回答の割合が上昇傾向にある。

◇小中学校ともに、学習時間について、この10年で上昇している。特に、小学校においては、「全く学習しない」と回答した子どもが半減している。

⇒**各学校において、「学ぶ力」育成プログラムに「学習習慣の定着」を位置付け、子どもの実態に合わせて、具体的な取組を図ってきた成果と捉えられる。**

◆計画を立てて勉強することについては、肯定的な回答をした子どもの割合は、小学校が65%程度、中学校が50%程度である。

◆平日の授業以外の学習時間が1時間未満の子どもの割合が、小学校では40%程度、中学校では30%程度である。

⇒**学習習慣については、意識の向上は見られるものの、継続的な課題。**

**★子どもに望ましい生活習慣や学習習慣が身に付くよう、学校と家庭が目標を共有し、連携して取り組んで行くことが重要である。→「学ぶ力」の育成に向けた5つのポイントの5に関連。⇒さっぽろっ子「学び」のススメの活用**

◇ 成果  
◆ 課題  
★ 改善策

分析のまとめ

## ■ 各学校の創意工夫による指導方法等の工夫改善～「学ぶ力」育成プログラムの活用

- 「学ぶ力」育成プログラムの作成・実行・改善(PDCAサイクルによる検証改善)(H26年度～) \* 各学校のHPに掲載
  - 「学ぶ力」育成プログラムの様式改訂(H29～) \* 徹底して行う取組の焦点化・具体的な取組に対する成果検証等
  - 「学ぶ力」育成プログラムの改善に向けた校内研修の充実
    - ・指導主事による助言機会の拡充
    - ・研究開発事業における実践例の普及
    - ・校内研究の代表者に向けた研修会(札幌研事業 校内研究推進会議)
  - 「学ぶ力」の育成に向けた5つのポイントを柱として、次の3つの視点から授業改善
    - 1 課題探究的な学習の充実
    - 2 学習評価の充実
    - 3 小中一貫教育の視点

### 「学ぶ力」の育成に向けた5つのポイント

1. 難しいことにも挑戦する意欲を伸ばします。
2. 「自ら学ぶ方法」と「人と学ぶ方法」を身に付けられるようにします。
3. 意味理解を伴った知識の習得と、知識を使いこなす力を伸ばします。
4. 自分の「伸び」を実感して、新たな目標をもてるようにします。
5. 生活を自らコントロールする力を育みます。

## ■ 全市での「課題探究的な学習の推進」

- 自ら疑問や課題をもち、主体的に解決する課題探究的な学習を取り入れた授業の充実
  - 「**主体的・対話的で深い学び**」の視点からの授業改善
  - セルフチェック**を活用した授業改善
  - 教育委員会において、課題探究的な学習に関する考え方や各施策の関連を整理して、**さっぽろっ子「学ぶ力」の育成プランに位置付け**、各学校における取組をより一層推進

### 6つのセルフチェック

1. 子どもが興味・関心、疑問を十分にもてるようにするためには？
2. 子どもが意欲を持続させることのできる課題を設定するためには？
3. 子どもが課題の解決に向けて見通しをもてるようにするためには？
4. 子どもが協働して課題解決に向かえるようにするためには？
5. 子どもが多面的・多角的に考察できるようにするためには？
6. 子どもが学びのよさや、できるようになった喜びを実感し、次の課題に向かえるようにするためには？

## ■ 家庭への啓発等の充実～さっぽろっ子「学び」のススメの活用

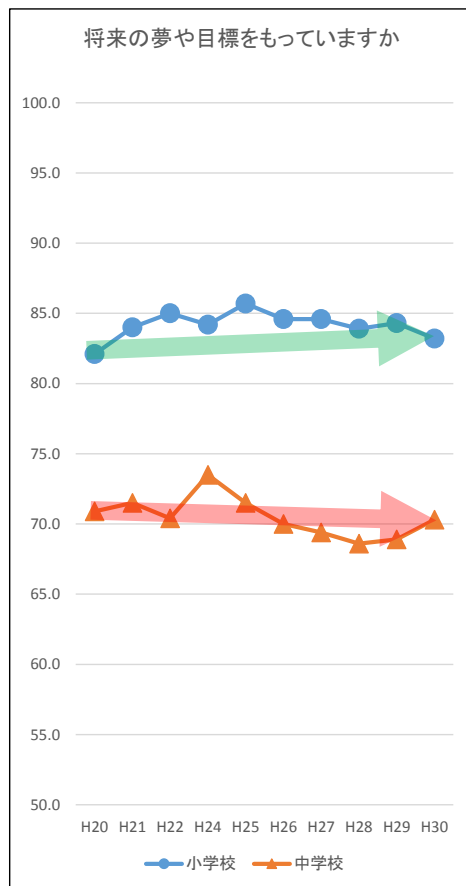
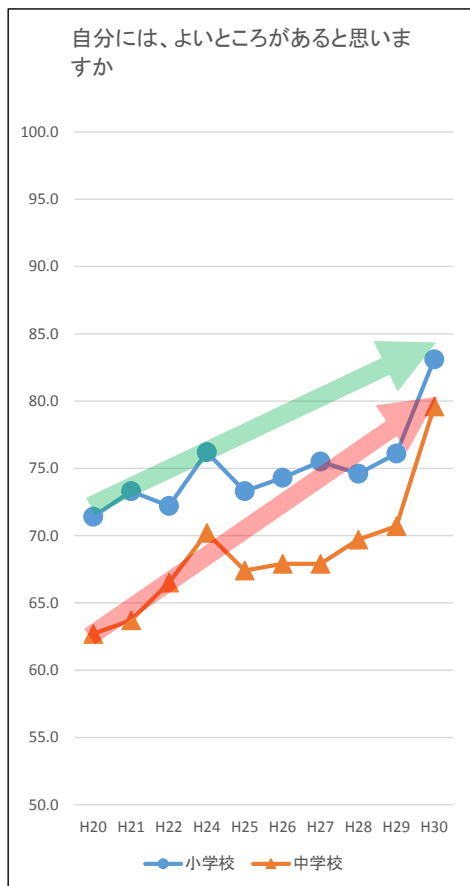
- さっぽろっ子「学び」のススメの活用
  - 「**学ぶ力**」の育成に向けた5つのポイントを柱として、**学校と家庭が子どもの学習習慣づくり・運動習慣づくり・生活習慣づくりを進める際の指針**として活用
  - さっぽろっ子「学び」のススメを基に、学校と家庭が目標を共有し、子どもの主体的な学びを共に支えていく取組を充実

<資料> 経年変化 ～児童生徒質問紙調査から～

※折れ線グラフは、肯定的な回答の割合の経年変化を示したものである。  
 ※平成23年度は、東日本大震災の影響等により、国において調査の実施を見送っている。  
 ※平成22、24年度は、抽出調査で実施している。

**学ぶ意欲の状況**

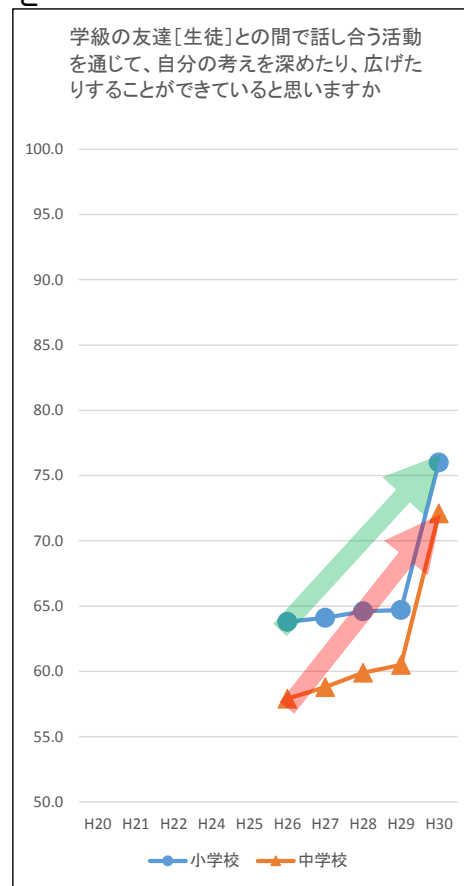
◎自分には、よいところがあると思うこと ◎将来の夢や目標をもっていること



◇「自分にはよいところがあると思いますか」という項目において、小学校、中学校ともに肯定的な回答の割合がこれまで改善傾向にあったが、今年度は小中学校ともに大幅な上昇が見られた。  
 ◆「将来の夢や目標をもっていますか」という項目において、小学校、中学校ともに、平成25年度から下降傾向にあったが、今年度は、中学校において改善が見られた。  
 ☆子どもが自分の「伸び」やできるようになった喜びを実感したり、今の学びが将来にどう生きるのかを考えたりできるようにすることが重要である。→「学ぶ力」の育成に向けた5つのポイントの4及び「課題探究的な学習」におけるセルフチェックの6に関連

**課題探究的な学習の状況(主体的・対話的で深い学び)**

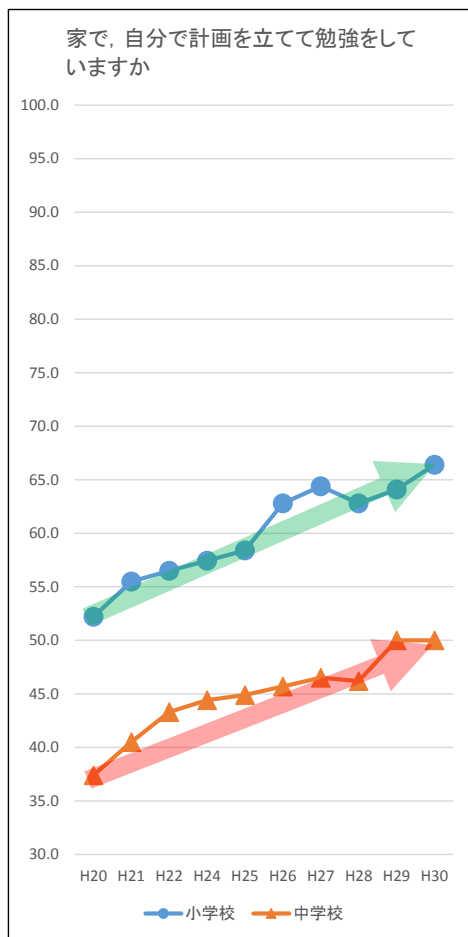
◎自分の考えを深めたり、広げたりすること



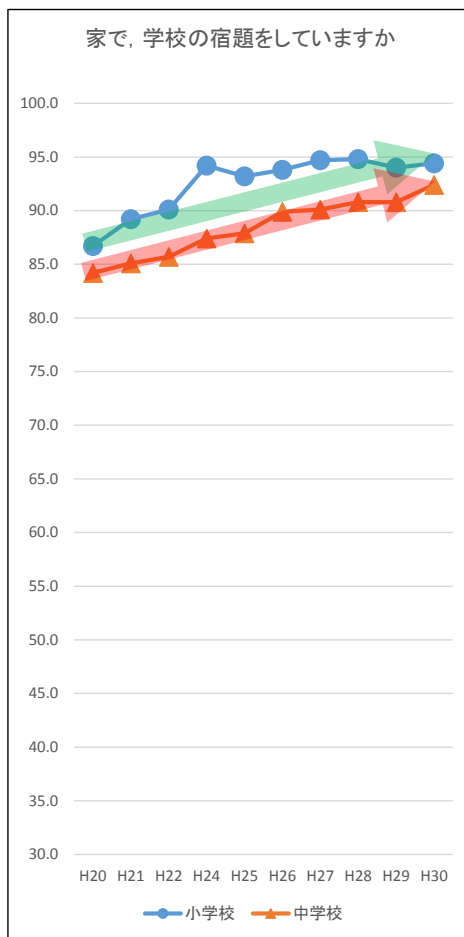
◇「自分の考えを深めたり、広げたりすること」については、小学校、中学校ともにこれまで60%台で推移していたが、今年度は小学校、中学校ともに10ポイント程度の上昇が見られた。⇒「課題探究的な学習」に対する子どもの意識が向上している。  
 ☆子どもが他者と話し合うことのよさや、できるようになった喜びを実感できるよう、話し合う活動を通じて自らの考えを広げ深められるようにすることが重要である。(「学ぶ力」の育成に向けた5つのポイントの3、4及び課題探究的な学習におけるセルフチェックの5、6に関連)

# 学習習慣の状況

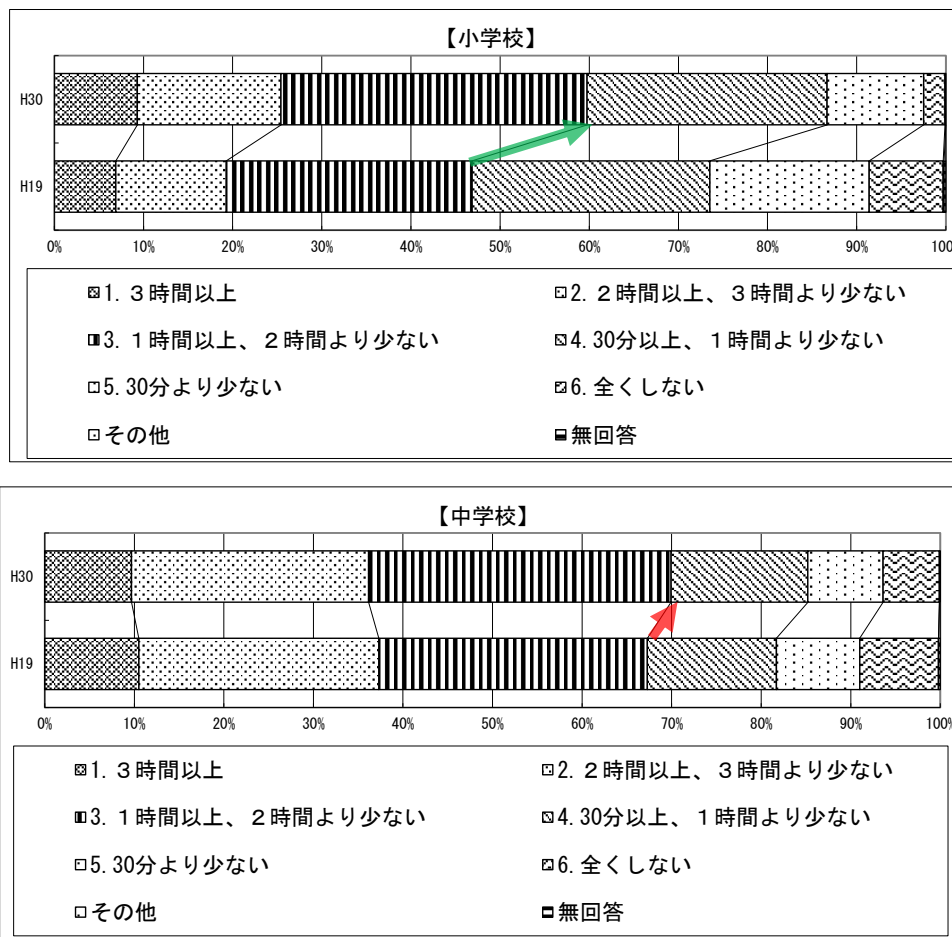
## ◎計画的に家庭学習をすること



## ◎学校の宿題をすること



## ◎授業以外の学習時間【平日】(1日当たり)



◇「家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか」「家で学校の宿題をしていますか」という項目において、小学校、中学校ともに肯定的な回答の割合が上昇傾向にある。  
 ◇小学校、中学校ともに、平日の授業以外の学習時間が1時間以上であると回答している子どもの割合が、この10年で上昇している。特に、小学校においては、「全く学習しない」と回答した子どもが半減している。

⇒各学校において、「学ぶ力」育成プログラムに「学習習慣の定着」を位置付け、子どもの実態に合わせて、具体的な取組を図ってきた成果と捉えられる。

◆「家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか」という項目では、肯定的な回答をした子どもの割合は、小学校が65%程度、中学校が50%程度である。

◆平日の授業以外の学習時間が1時間未満の子どもの割合が、小学校では40%程度、中学校では30%程度である。

⇒学習習慣については、意識の向上は見られるものの、継続的な課題。

★子どもに望ましい生活習慣や学習習慣が身に付くよう、学校と家庭が目標を共有し、連携して取り組んで行くことが重要である。→「学ぶ力」の育成に向けた5つのポイントの5に関連。⇒さっぽろっ子「学び」のスキルの活用